令和5年度　学校評価（自己評価）集計結果　〈学校〉

青森県立青森聾学校

回収率　１００％（全２５名）

下記の項目について、評価の欄の1～4の該当する数字を〇で囲んでください。

４　そのとおりである　　３　おおむねそのとおりである　　２　やや違う　　１　違う

＊　各評価項目の平均は、小数第２位で四捨五入したものです。

ＮＯ	評　価　項　目		評価				R5 平均
1	自分は、個々の幼児児童生徒のアセスメントを大事にし、自分の考えを伝えたり相手の話を理解したりできるよう言語力の育成に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	10	15	0	0	
2	自分は、幼児児童生徒や保護者と十分話し合い、ニーズを受け止めて指導に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	8	16	1	0	
3	自分は、キャリアパスポートを活用し、子どもと一緒に将来の夢や希望を持てるよう指導している。	評価	4	3	2	1	２．９
		人数	4	15	6	0	
4	自分は、子どもの得意なところを見つけ、自信をもって取り組めることを増やすよう努めている。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	8	17	0	0	
5	自分は、子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を習得できるよう、興味・関心を大切にした「わかる・できる」授業づくりに取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	8	17	0	0	
6	自分は、他の職員の授業を見たり（動画視聴も含む）、授業研究会に参加したりして授業力の向上に努めている。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	10	13	2	0	
7	自分は、子どもたちが互いに協力したり、一人一人が活躍したりできる活動場面を設定している。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	11	13	1	0	
8	自分は、子どもたちに課題解決をさせる経験を通して協力することや努力することの大切さと喜びを実感できるようにしている。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	9	15	1	0	
9	自分は、子どもたちが自分の考えや思いを適切に伝えられる手段を身に付けられるよう努めている。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	11	14	0	0	
10	自分は、友達の良さを認め、自己のよいところを見つけられる活動を工夫している。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	7	18	0	0	
11	自分は、教育活動全般を通じて道徳教育を推進している。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	7	18	0	0	
12	学校は、子どもたち一人一人に合わせた生活習慣を身に付けさせため、入学から卒業まで継続して指導している。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	10	13	2	0	
13	学校は、子どもたちが自分の健康と安全を確保できる知識と実践できる力の育成に努めている。	評価	4	3	2	1	３．３
		人数	9	15	1	0	
14	学校は、子どもたちが安全に生活できる施設設備の維持充実と地域と連携した安全・防犯対策に努めている。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	10	15	0	0	

15	学校は、情報保障やＩＣＴを活用した教育活動ができる学習環境を充実させている。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	16	9	0	0	
16	学校は、安全な給食・舎食の提供に努めている。	評価	4	3	2	1	３．８
		人数	19	6	0	0	
17	学校は、緊急時の連絡・避難に対応できる体制づくりを行っている。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	16	9	0	0	
18	学校は、いじめの未然防止と、積極的ないじめの認知を行い、組織的に対応している。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	15	10	0	0	
19	学校は、学校運営協議会を設置し、保護者・地域住民の学校運営への参画の推進を通して学校づくりを進めている。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	10	15	0	0	
20	学校は、保護者に教育活動のねらい、内容、結果について説明し、連携して教育活動を進めている。	評価	4	3	2	1	３．４
		人数	10	15	0	0	
21	学校は、地域における教育相談・支援活動を推進し、地域に貢献する学校づくりを進めている。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	15	10	0	0	
22	学校は、東青地区連携協議会事務局として、関係機関との連携に努めている。	評価	4	3	2	1	３．５
		人数	13	12	0	0	
23	学校は、手話講座を開催し、聴覚特別支援学校として手話に関する理解啓発に努めている。	評価	4	3	2	1	３．７
		人数	17	8	0	0	
24	学校は、ホームページを活用した情報発信を積極的に行っている。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	16	9	0	0	
25	学校は、職員の研修の機会を確保し、校内研修や校外研修、校内研究に取り組んでいる。	評価	4	3	2	1	３．６
		人数	16	9	0	0	
26	学校は、仕事と生活の両立ができるよう職員間で協力し合い、互いに助け合っている。	評価	4	3	2	1	３．２
		人数	7	17	1	0	
27	学校は、多忙化解消に向け、業務改善できるよう見直しをしている。	評価	4	3	2	1	２．９
		人数	5	13	7	0	
28	学校は、意見の相違があっても協力し合っている。	評価	4	3	2	1	３．０
		人数	4	17	4	0	
					全平均		３．４

意見･要望等

・学校評価、生徒支援部のアンケート等、重複するものは一つにした方が良いと思う。同じ質問があるのではないか。アンケートはデジタルで統一した方が良いと思う。学校としてＤＸをもっと進められたら良いと思う。

集計結果の概要

ほとんどの評価項目において、自己評価平均が３（おおむねそのとおり）以上でしたが、「キャリアパスポートの活用」に関する項目、「多忙化解消に向けた業務改善」は２．９でした。

「キャリアパスポートの活用」に関しては、昨年度の学校評価を受け、年度当初に進路指導部が中心となって全職員で共通理解を図ってスタートしましたが、活用の仕方等について調査し改善策を検討することが必要と考えます。

「多忙化解消」に関しては、年１回２学期に業務改善について職員から出された意見を学部主任会議で検討し、改善できそうな所から共通理解を図って改善に努めています。就労促進センターが昨年度末で閉鎖し、これまで担っていただいていた細かい業務が今年度から依頼できなくなったことが要因の一つと考えられます。業務改善の見直し方について職員から意見を募り次年度に向けて検討していきます。

また、「意見の相違があっても協力し合っている」の項目が３．０、「仕事と生活の両立ができるよう職員間で助け合っている」が３．２とやや低かったことから、職員間で互いの立場を認め合い、協力し合って働きやすい職場環境づくりを目指す必要があると考えます。

「センター的機能」「安全な食の提供」、「ＩＣＴ」「学校安全」「いじめ」「研修」に関わる項目は自己評価平均が高くなっています。